

Ⅲ. 3. その他の外部資金

○奨学寄附金

<言語社会専攻>

対象教員	寄付団体名	研究課題	金額	研究期間
スウェーデン語専攻	スウェーディッシュ・インスティテュート	Sweden-Japan, 150 years of diplomatic relations	1,000,000 円	設定なし

○共同研究

<言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

受入教員	相手先	研究課題	金額	研究期間
永原 順子 助教	株式会社 坂本技研	学際的視点を持たせる地域連携教育研究	200,000 円	H29.11.1～ H31.10.31

○受託研究

<言語社会専攻>

受入教員	相手先	研究課題	金額	研究期間
杉田 米行 教授	READYFOR(株)	1947年から1961年までの戦後文献資料に関する研究	876,814	H28.10.11～ H31.3.31
米田 信子 教授	独立行政法人 日本学術振興会	言語学分野に関する学術研究動向 ー少数言語ドキュメンテーション研究の現状と展開ー	1,560,000 円	H30.4.1 ～ H31.3.31
(研究代表) 畑田 美緒 教授 計12名	一般財団法人 日本生涯学習総合 研究所	大学英語教育における CEFR の活用ーESP と 4 技能育成の 統合	1,000,000 円	H30.10.1 ～ H31.3.31

○受託事業研究

<言語文化専攻>

ドイツ (DAAD) との共同研究

対象教員	寄付団体名	研究課題	金額	研究期間
田畑 智司 准教授	独立行政法人 日本学術振興会	文学テキストにおけるコンプレキシティの計量言語学的研究	1,960,001 円 (H30 年度 分)	H29.4.1～ H31.3.31

<言語社会専攻>

受入教員	相手先	事業名	金額	研究期間
(研究代表) 横井 幸子 教授	文部科学省 初等中等教育局	グローバル化に対応した外国語教育推進事業	1,439,520 円	H30.5.31～ H31.3.29
(受入窓口) 箕面事務室 教務係	独立行政法人 国際交流基金	海外日本語教育インターン派遣プログラム	1,025,452 円	H30.8.1～ H31.3.30

○日本学術振興会特別研究員

<言語文化専攻>

氏名	助成団体	助成名称	申請課題	助成金等
植田 尚樹 PD	日本学術振興会	平成 29 年度日本学術振興会特別研究員	東部ユーラシア諸言語の動態的音韻研究—音声産出・知覚実験を軸に—	362,000 円/月
杉山 真央 DC2	日本学術振興会	平成 29 年度日本学術振興会特別研究員	ロシア年次教書におけるロシア大統領のスピーチスタイル	200,000 円/月
井原 駿 DC1	日本学術振興会	平成 29 年度日本学術振興会特別研究員	組み合わせ範疇文法 (CCG) を用いた日本語発話形式処理システムの構築	200,000 円/月
陳 曦 DC2	日本学術振興会	平成 30 年度日本学術振興会特別研究員	日本語複合語のアクセント融合・非融合に関する総合的研究	200,000 円/月
木場 亜莉沙 DC2	日本学術振興会	平成 30 年度日本学術振興会特別研究員	ディスコースの交錯—性的少数者と民族的少数者の集合的アイデンティティ	200,000 円/月
三野 貴志 DC1	日本学術振興会	平成 30 年度日本学術振興会特別研究員	There 構文の多層的ネットワークの構築—構文文法の新たな枠組みを求めて—	200,000 円/月

<言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

氏名	助成団体	助成名称	申請課題	助成金等
古本 真 PD	日本学術振興会	平成28年度日本学術振興会特別研究員	スワヒリ語南部諸方言の記述と方言分類の批判的検証	200,000 円/月
小野田 風子 DC2	日本学術振興会	平成29年度日本学術振興会特別研究員	多言語状況下の文学研究—スワヒリ語作家ユーフレイズ・ケジラハビを中心に—	200,000 円/月

劉 玲芳 DC2	日本学術振興会	平成29年度日本学術振興会特別研究員	「日中身装文化の交流史－日清戦争から第二次世界大戦まで－」	200,000 円/月
牧野 友香 DC2	日本学術振興会	平成29年度日本学術振興会特別研究員	ベンバ語およびその周辺言語におけるテンス・アスペクト体系についての比較研究	200,000 円/月
安部 麻矢 PD	日本学術振興会	平成29年度日本学術振興会特別研究員	タンザニア・マア語の2変種の社会言語学的記述研究－言語接触の視点から－	362,000 円/月

○内地研究員

該当なし

○私学研修員

該当なし

○国際共同研究推進促進プログラム

<言語文化専攻>

言語と論理的思考の発達に関する研究	
研究代表者	言語文化専攻・教授 宮本 陽一
招へい研究者	Sauerland Ulrich ライプニッツ理論言語学研究所/意味論・語用論研究グループ/副研究所長
研究期間	平成30年4月1日～平成33年3月31日
研究課題の概要	本研究は、実験語用論の観点から論理的思考と選択的接続詞の依存関係ならびに、その獲得過程を明らかにする。論理的思考の発達への母語の影響を解明するために、モノリンガル（4歳から10歳）、バイリンガル、第二言語学習者、第三言語学習者による選択的接続詞の獲得過程を比較検討する。

<言語社会専攻>

アジア太平洋地域の平和と安定：包括的アプローチを目指して	
研究代表者	言語社会専攻・教授 杉田 米行
招へい研究者	シドニー大学・上級講師 Thomas Wilkins
研究期間	平成29年4月1日～平成36年3月31日

研究課題の概要	<p>研究の全体構想は、アジア太平洋地域の平和と安定をいかにして築くかということ、歴史的知見を基礎にして探求するとともに、それを基に将来の展望を切り開くことである。そのために、本研究は、平成26年度～28年度の国際共同研究促進プログラム「アジア太平洋地域の平和と安定：国際行動規範形成のための重層的分析」の成果を発展させる。前回の研究では国際行動規範形成の必要性を解明したので、今回は制度的・国内政治的・文化的・法的経済的諸要因を構造的に取り込み、包括的アプローチの構築を目指す。そのために、まず、個別要因の分析を行い、その成果を積み上げていきたい。</p>
---------	---

医療保険制度が診療に与える影響（腫瘍学を中心として）：日本とインドの比較研究	
研究代表者	言語社会専攻・教授 杉田 米行
招へい研究者	<p>Senior PhD. Research Scholar, Department of Liberal Arts Srivanthi Maya</p> <p>Senior PhD. Research Scholar, Department of Liberal Arts Shweta Kiran Chawak</p>
研究期間	平成30年4月1日～平成36年3月31日
研究課題の概要	<p>本研究では、医療保険制度が診療、特に診療の効果に与える影響に関して、日本とインドの比較研究をすることである。アジアの成熟した大国の代表として日本を、アジアの台頭しつつある新興国の代表としてインドを比較検討する。従来、診療の効果は国の経済力を背景とした医療テクノロジーに起因することが多いと考えられてきた。本研究の具体的な目的は、医療テクノロジーのみならず、各国の医療保険制度が診療の効果に大きな影響をおよぼしているという仮説をたて、日本とインドで比較研究をしながら、その仮説を検証することである。将来的には、中国、東南アジア等を含めたアジア全体に研究対象を拡大したいが、今回はその第一歩としての共同研究に着手する。</p>